

# 海洋島

第6巻 第1号 (通巻45号)

東京都小笠原水産センター

2004年 4月 27日発行

〒100-2101 東京都小笠原村父島字清瀬

04998-2-2545 Fax. 04998-2-2546

## 満1歳を迎えたイシガキダイの成長

昨年、水産センターでイシガキダイの種苗生産に成功したことを海洋島(2003年7月31日発行、通巻40号)でお知らせしましたが、その時のイシガキダイがこの4月で満1歳を迎えました。今回はイシガキダイの1年間の成長と放流の経過について概要をお知らせします。

今回、満1歳を迎えたイシガキダイは昨年4月21日に産卵し、4月23日に直径約1mmの受精卵からふ化した群で、ふ化した時は全長3.5mmほどでした。ふ化後しばらくはシオミズツボウムシやアルテミア幼生という生きた動物プランクトンを餌として与え、全長1.0cm(ふ化後25日)頃からマダイ用の人工配合飼料に切り替えて飼育してきました。全長3.9cm(ふ化後55日、体重1.6g)からは毎月20尾を取り上げ全長と体重を測定しています。成長の様子を図1に示しましたが、約1年を経過した4月6日(ふ化後349日)の測定では平均全長26.8cm、平均体重659gに成長し、活魚での市場出荷サイズ(600~1,200g)に達しています。センターで試食したところ白身で臭みもなく、十分商品となるものでした。

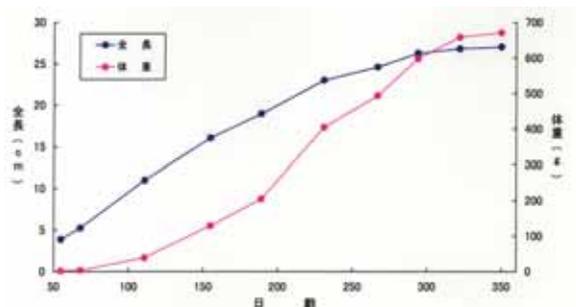


図1 イシガキダイの成長

一方、これらの兄弟約4万尾を昨年、小笠原諸島に放流しました。放流は昨年8月19日に父島海域で、10月15日および20日に母島海域で行い、全長8~12cmの稚魚をそれぞれ2万尾ずつ放流しています。今頃は海の中で大きく育っていることと思います。

現在、成長をみるために当センターに残っている1歳のイシガキダイは560尾ですが、今後、東京方面への活魚出荷試験も予定しています。また、一部の飼育魚は完全養殖に向けて親魚まで育て、自然産卵させることを目指しています。なお、今年もすでに親魚が産卵しており、得られた受精卵を元に、ふ化した稚魚を飼育中です。



図2 大きく成長したイシガキダイ

## 稀種コシナガイスズミ父島で採捕

4月19日に父島在住の高橋研史さんが父島西で採捕したきれいな魚を持って来られました。顔はサ



写真提供:高橋研史さん

サヨですが体が細長く青がきれいな魚でした。調べたところコシナガイスズミという日本では非常にまれな種と分かりました。肉質

は白くササヨのような臭みはありませんでした。

## 水産センターの4月人事異動のお知らせ

- 転出 川辺勝俊 (水産試験場大島分場へ)
- 退職 山本貴道
- 転入 河西一彦 (水産試験場奥多摩分場より)
- 転入 妹尾浩太郎 (水産試験場大島分場より)